

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Effects of the maternal work environment on psychological distress during pregnancy: A cross-sectional research—The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊婦中の心理的苦痛に対する母親の職場環境の影響:横断研究—エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名:北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Occupational and Environmental Medicine

年:2024 DOI:10.1097/JOM.0000000000003276

筆頭著者名:小林 澄貴

所属 UC 名: 北海道ユニットセンター

目的:

エコチル調査に参加している就労妊婦の職場環境と、妊婦の妊娠初期から後期における心理的苦痛(悲しみ等の過度のストレスがかかった場合に感じる苦痛のこと)との関連を検討することを本研究の目的とした。

方法:

エコチル調査参加者のうち、妊娠初期に就労していた妊婦 42,797 人を対象とした。就労妊婦の労働環境は妊娠初期のアンケートから、妊娠初期から後期の心理的苦痛は、ケスラー-6 項目心理的苦痛スケール(K6)から情報を入手した。そして、就労妊婦の労働環境と妊婦の妊娠初期から後期における心理的苦痛との関連は、一般化推定方程式モデルを用いて検討した。

結果:

1 週間当たり平均 51 時間以上就労していた妊婦は、平均 36~40 時間就労していた妊婦と比較して、妊娠初期から後期の心理的苦痛のオッズ比は 1.19 倍であった(95%信頼区間:1.07-1.32)。また、1 か月あたり 5 日以上シフト勤務した妊婦は、シフト勤務していない妊婦と比較して、妊娠初期から後期の心理的苦痛のオッズ比は 1.11 倍(95%信頼区間:1.00-1.24)であった。一方、妊娠初期の職業の種類及び雇用形態と妊娠初期から後期の心理的苦痛との関連は見られなかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究は横断研究のため、就労妊婦の長時間労働及びシフト勤務と妊娠初期から後期の心理的苦痛との因果関係は分からない。また、妊婦の職場環境と精神的苦痛の評価は、医療関係者と臨床心理士による評価ではなく、妊婦自身が記載したことから、本研究の結果に偏りをもたらした可能性がある。

結論:

妊婦の職場環境と妊娠中の心理的苦痛との関連が認められた。